

息軒エピソード ①

昭和 30 年代、かつては陸の孤島といわれた宮崎観光は急激に脚光を浴び、日本の代表的な観光地となり、新婚旅行のメッカとなりました。新婚さんをいっぱい乗せた観光バスが空港を過ぎると、花形バスガイドさんは、「皆さまこのあたりから西に入りますと、おおよそ 4 キロで清武町中野に参ります。」と、名調子で儒学者安井息軒とお佐代さんの物語を紹介していました。

この宮崎交通の観光ガイド原稿を書いたのは、宮崎観光の父、岩切章太郎氏。章太郎氏は、なぜ安井息軒をガイド原稿にしたのでしょうか。同氏の著書「一木一草」のページをめくると『論語と観光開発』のことが書いてあります。

章太郎氏は第一高等学校時代（現東京大学）、息軒先生の孫、安井小太郎教授から漢文を学んでおり、論語の講義を受けました。講義で「朝に道聞けば、夕に死すとも可なり」という論語の有名な説明が、小太郎の解釈は一般説と異なり読み方も「朝に道行わるるを聞けば夕に死すとも可なり」と、教えられました。この論語の講義は、章太郎氏に非常な感銘を与え、宮崎での観光開発に努力して行く上での、一番の指針になったそうです。

孫の小太郎は明治の大漢学者として知られ、息軒の著書「読書余適」や「睡餘漫稿」などを再版するなど息軒の偉業を広く伝えており、章太郎氏の美しい宮崎づくりにも息軒の学問が活かされたのです。そして岩切章太郎氏は特別な想いを込めて自らこの原稿を書き、別な想いを込めて自らこの原稿を書き、ガイドさんたちに案内させたのです。



安井息軒記念館 今後の行事予定

1. 安井息軒記念館 夏企画（詳細は 1 面）

宮崎の宝物「知の巨人」安井 息軒 ～ 最新の評価・研究と資料 ～

7月15日（土）～ 9月24日（日）、月曜日休館、月曜祝日の場合は翌日休館
9：00 ～ 16：30 開館

2. 安井息軒記念館講座（毎回 10：00～11：45）

- 第2回 7月15日（土）「振徳堂を巣立った偉人たち」小村 寿太郎ほか
講 師 日南市教育委員会文化財専門担当官 長友 禎治氏
- 第3回 8月5日（土）「安井息軒の教訓について」
講 師 郷土史研究家 甲斐 亮典氏

（申込は電話またははがき、メール、ファックスで 連絡先は 1 面をご参照ください。）
ご住所、お名前、連絡先をお伝えください。

3. 安井息軒書道展 夏休み中に別途募集

展 示 9月17日～10月14日 本館にて

